

西郷港ターミナルエリア みちがえるまちづくり 都市再生整備計画 第2回意見交換会



現況模型

令和2年12月26日

西郷港ターミナルエリア
みちがえるまちづくり 都市再生整備計画
第2回意見交換会

- 第1回意見交換会のふりかえり
- 都市再生整備計画づくりの進め方について
- 交通機能の配置について
- 今後のスケジュールについて

西郷港ターミナルエリア
みちがえるまちづくり 都市再生整備計画

第1回意見交換会の振り返り

令和2年(2020年)
11月6日(金) 19:00～
11月7日(土) 13:00～

- 西郷港玄関口まちづくり計画の共有
- 都市再生整備計画の策定に向けての考え方
- 整備に向けての心配ごとや留意点など

西郷港玄関口整備が 新しい段階に進んでいることの共有

2018年～2020年

「西郷港玄関口まちづくり計画」

全11回の住民参加のまちづくり談義を開催し、課題抽出や
その課題解決に向けての理念や整備方針を決定



2020年～2022年

「西郷港ターミナルエリア都市再生整備計画」へ

西郷港玄関口まちづくり計画概要

■西郷港玄関口地域の範囲の確認



■基本理念の確認

港とまちをつなぎ 世代をつなぐまちづくり

～にぎわい と 安心・安全 の実現～



■方針の確認

「ターミナルエリアの整備」を核として
「みち」「かわ」「台地」がつながることで、
西郷港玄関口地域の活性化を実現します。



■ターミナルエリアの整備方針の確認

西郷港玄関口地域再生の拠点であるターミナルエリアの機能を改善・強化

◆海から島内へ続く結節点として、玄関口にふさわしい交通拠点を整備

- ✓ 病院・役場(新庁舎)・商業施設・空港等へ向かう島内交通の結節点
 - バス乗降場、送迎の乗降スペース、レンタカー送迎用スペース、一時駐車スペース等の機能的な配置
- ✓ ターミナルエリアを起点とする魅力的な歩行空間の整備
- ✓ わかりやすい動線の設定やまちの案内板などの整備

◆来訪者がふれあえる交流機能の充実

- ✓ ふれあえる総合的な交流空間の整備
 - オフィス機能、イベントスペース、寄り合いスペース、物販スペース等
- ✓ 来訪者のための宿泊施設の充実
- ✓ 隠岐の島町の魅力を発信する情報拠点の整備

◆にぎわいをもたらす飲食・みやげ・雑貨などが充実した商業機能の強化

- ✓ 来訪者が利用しやすい飲食・喫茶などの充実
- ✓ 商業機能を充実させる各種施策の推進

西郷港ターミナルエリア

みちがえるまちづくり
都市再生整備計画の目標の共有

人と交通の流れを演出する
空間機能のデザインの検討

ターミナルエリアの整備に向けての考え方

●みちがえるまちづくりの目標

人と車の流れを変える(みちをかえる)ことにより

西郷港エリアの賑わいをとりもどし、隠岐の島町の心肺機能を強化することで、隠岐の島町全体の発展をはかる

●ターミナルエリアと西郷玄関口地域のつながり

ターミナルエリアを起点として、西郷玄関口地域をひとが歩いて楽しめる空間に作り変える

●ターミナルエリア整備による島内外の交流促進

来訪者と町民の交流の場として機能させることで、人・モノ・情報等の豊かな流れをつくりだす

意見交換会での主な意見（心配事・希望する点等）

【ターゲットは誰か、観光客？、町民？】

- 観光客は隠岐らしさを求めている
- 観光客へは、便利を追求するのではなく、田舎らしさを演出することも大切
- 道の駅と海の駅がいっしょになったようなものを考える
- 現在の店舗も生かしながら、新たな店舗も立地する場も必要
- 町民のとのふれあいの場として機能するように、町民が集う場としても必要

【どんなイメージのまちづくりを目指すのか】

- 海が見える立地を生かした整備が必要
 - 古きよき港の風情を残し、北前船の寄港地としてのよさを残してほしい
 - がらっと変わっていくのはどうかと思う
 - あまり都会化しない方がよい
-
- かつては、境港より賑わっていた(都会だった)という話も出た

【交通拠点としてどんな整備をするのか】

- バスで移動しようと思うと、わかりにくく、乗りにくい（町民も、観光客も）
- レンタカーでないと観光しにくい。
- 公共バスをしっかりと使えるように路線を検討することがまず必要。
- 公共ロータリーが必要かどうかの検証が必要。
- 町民の来訪目的に合わせた駐車場が必要
- 歩きたくなるみちづくりが必要

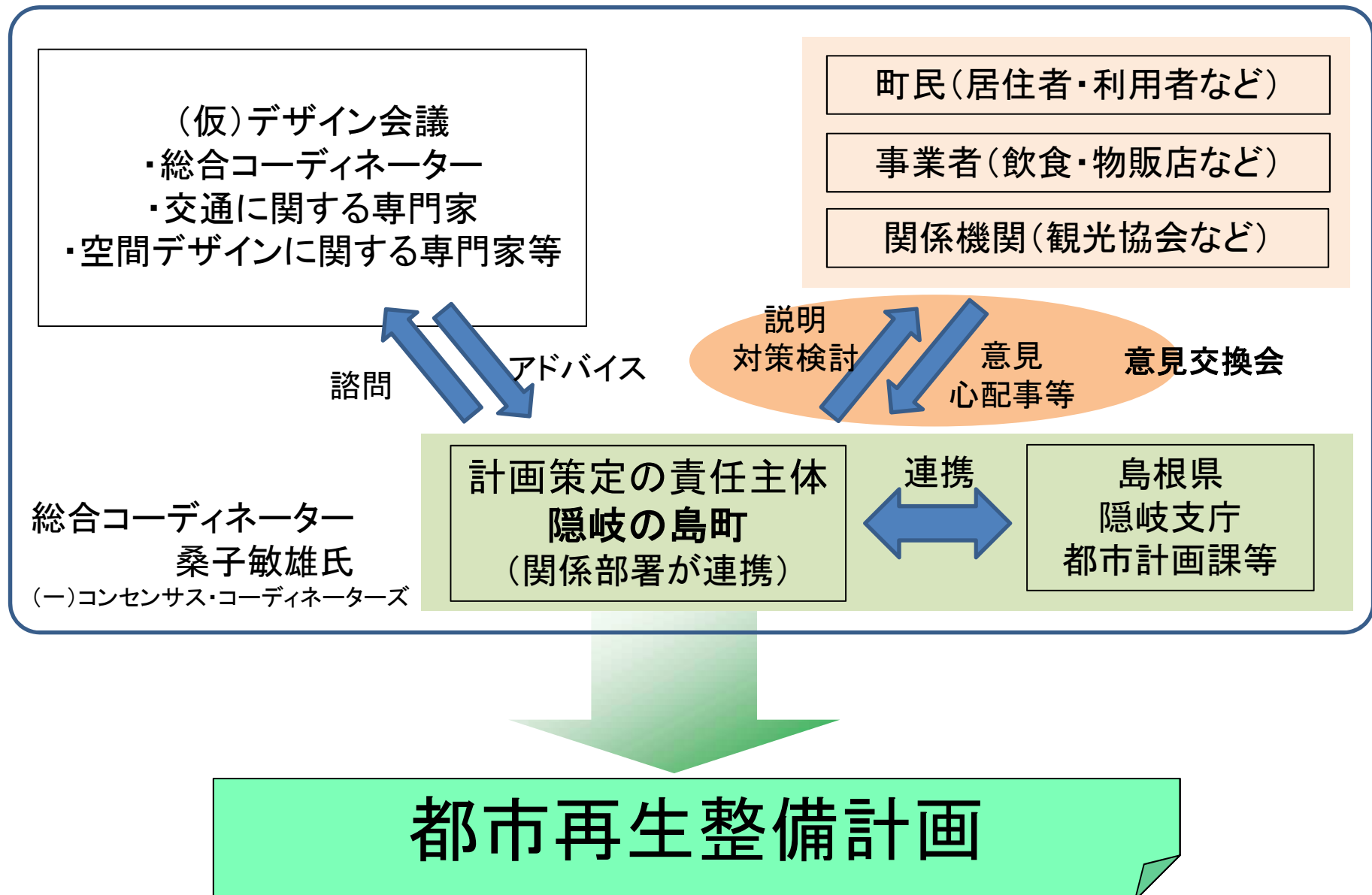
【その他の意見】

- 防災対策に配慮することも大切
- 事業に対する合意形成はできているのか
- どの程度の範囲までを考えているのか
- 立ち退きはあるのか

西郷港ターミナルエリア

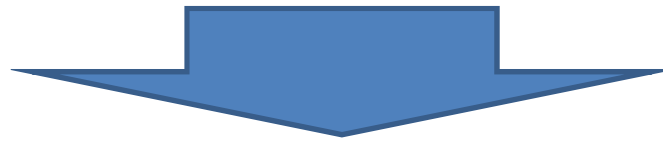
整備計画づくりの進め方と 成果イメージについて

計画づくり体制について



ターミナルエリアのデザインの検討

ターミナルエリアのデザインコンペの
仕様書の決定



デザインコンペの実施
(具体の空間デザイン提案を募集)



ターミナルエリアのデザインの決定

デザインコンペの事例紹介（津和野町の駅前整備）

●デザイン募集に向けた仕様の概要

1.開催趣旨

デザインコンペを実施する背景や目的や活用方法の記載

- ・「津和野の顔、にぎわいと交流の場」となるような再整備
- ・幅広く、様々な人々の発想やアイデアを参考にすることが重要

2.実施主体：津和野町

3.応募資格

年齢・国籍・資格は問わない。個人でも会社・グループでもOK
(18歳以下でもOK)

4.賞

最優秀賞(1点)

その他、優秀賞(1点)、入選(数点)、特別賞(数点)

デザインコンペの仕様書の例

5 対象区域と整備の基本的な考え方

本コンペにおいては、次に示す全体的な整備の考え方(全体目標)及びテーマ別の目標を踏まえて、具体的な提案をしてください。

全体的な整備の考え方(全体目標)

津和野駅一帯を津和野の顔、
にぎわいと交流の場とする

テーマ別の目標

テーマ1：景観（風景）

観光客が津和野らしさを感じ、町民が誇れる
景観づくり

＜説明＞

- 観光客が津和野らしさを感じる、また、訪れた人の心に残る景観づくり
- 町民が共有でき、出かけたとき津和野に帰ったと感じる景観づくり
- 津和野から出ていった人が、帰省などのとき、津和野に帰ったと感じる景観づくり

テーマ2：機能・空間

交流と出会い、にぎわいが生まれる場づくり

＜説明＞

- 人、物、情報が交流し、出会いが生まれる場づくり
 - ・観光客相互、観光客と町民、町民相互…
 - ・特産品の販売、津和野の情報の提供…
- 交通結節点に加え、この場所そのものの魅力によってにぎわいを生み出す場づくり
- 国内外の来訪者を受け入れる場づくり

テーマ3：案内・回遊（周遊）

津和野全体の周遊性を高める仕組みづくり

＜説明＞

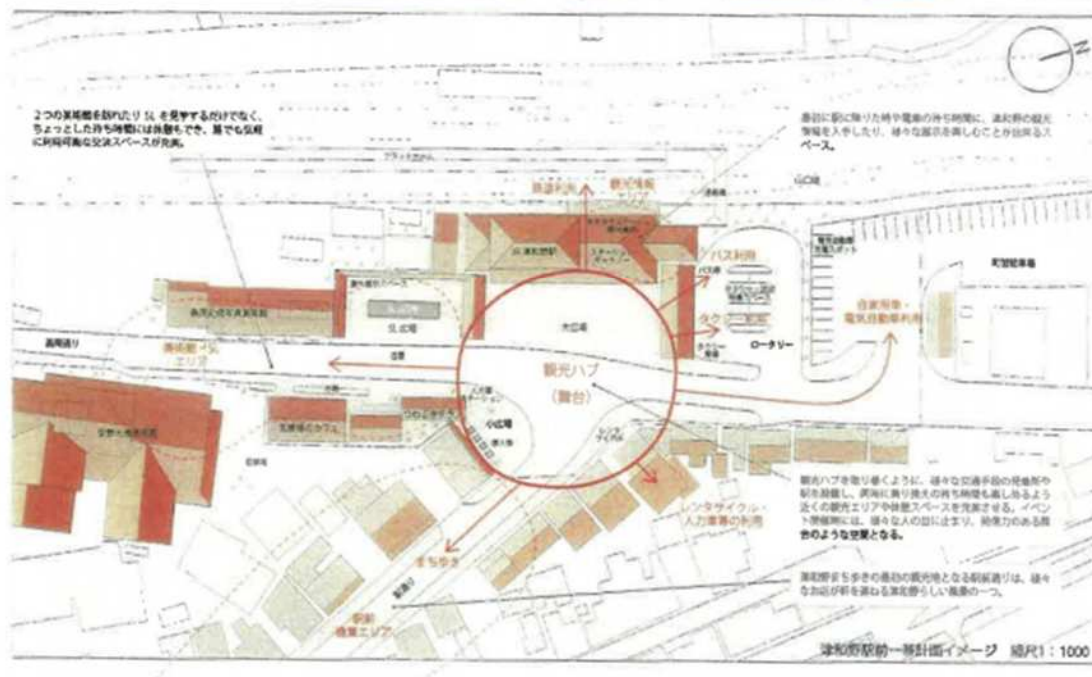
- 訪れた人が津和野の様々な場所を周遊したくなる仕組みづくり
 - ・公共交通、徒歩、自転車…
 - ・案内、ガイド、サイン、情報提供…
- 訪れた人が、津和野に何があり、どこに行けば目的を達成できるかわかる仕組みづくり

【提案を求める範囲とその内容】



デザインコンペの採用例

全体整備のコンセプトについて



コンセプト

津和野には豊かな歴史と文化が現在まで大切に保存されており、他にない自然観光資源に恵まれています。しかし現在それらは十分に活用し、また観光の拠点になる場所もないことから、局所的に観光客が顔を削られ、さらには二次的な経済的損失が少なく、豊かな観光資源がうまく活用できていないと感じました。そこで私たちは、以上の2つのコンセプトをもとにした観光拠点の整備により、定常的な観光資源の最大限の活用と、津和野の魅力を世界にアピールしたいと考えています。

大切に守ってきた豊かな歴史・文化を世界に向けて発信する、
「大舞台」として駅前空間を考える。

津和野を訪れる人の多くが最初目にすることになる駅舎空間には、豊かな歴史・文化を凝縮し、伝統行事やイベントによって生み出される価値などを発信する場所が意図的だと考えられます。そこで、既存の駅舎ローダーを北側に移設し、広い空間に大きな広場を設けます。そして広場を向うより入道橋の遠端をつくり、背景の緑溢れる山々と江の景色によって津和野らしい美しい風景をつくりだします。

また、この大きな広場で様々なイベントが開催可能で、親近感を呼びだすためにもめいめいの地域住民のためのイベントまで幅広く活用することで、これまでなかった新たな人々の流れのめくりを生み出します。



各所に音源や照明などのイベント時に必要な設備を予め備えておくことで、様々なイベント形式にも柔軟に対応し演出することが出来る舞台としての広場を設ける。

「ここから歩こう！津和野」をスローガンに掲げ、
「観光ハブ」として駅を再整備することで観光の拠点をつくる。

新しい駅前空間は、鉄道を利用する観光客だけでなく、車や観光バスなどあらゆる交通手段で津和野を訪れる人々にとっての観光の拠点「観光ハブ」になんげできなくてはなりません。そのために必要な様々な交通インフラや機能を広場の隅隅に集積させます。その機能は広場を囲う瓦葺い屋根の下に並び、広場全体の賑やかな風景とともに、人々に親近感をもたらし、自然と歩み寄りやすきです。

また、電車の待ち時間や交通の目的地への移動の負担などには、誰でも気軽に利用できる休憩スペースを充実させることで、多様な交通の拠点と隣り合いの関係を作り出します。



（現在の観光方法）

香川県エリアは寂寂しており、エリア間の移動には
自家用車やバスが多く利用されている。また歩き
は少なく、賑わいや活気が断片的となってしまう。

駅僕を観光動機の新しいハブとし、新しい観光インフラや商業施設により人々のまち歩きを促す。各観光エリアからの二次的な観光需要も期待でき、まち全体に両面性と活力を生む。

駅前広場モニュメント、駅通りへのゲートについて

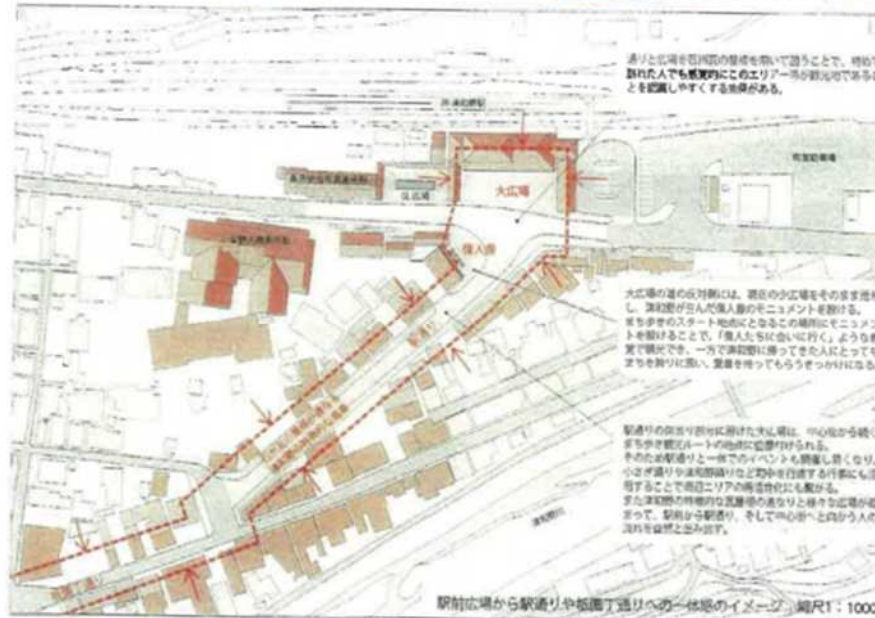
03



駅前広場と通りが一体となった様々な行事に活用されるイメージ



偉人像から始まる津和野まち歩きイメージ



通りと広場を両方の機能を用いて造ること、初めて訪れた人でも感覚的にこのエリアが駅周辺であることを認識しやすくなる効果がある。

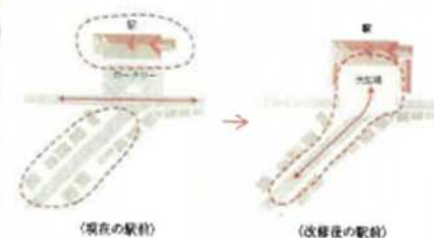
大広場の道の反対側には、歴史の小道をそのまま活用し、津和野が古くは偉人像のモニュメントを設ける。まち歩きやスタート地点となるこの場所にモニュメントを設けることで「偉人像に会いに行く」という感覚で観光でき、一方で津和野に訪れてきた人にとってもまち歩きに誘い、旅情を持ってもらうきっかけになる。

駅通りの駅寄り部分に設けた大広場は、中心部から徒歩で歩き駅通りと一体でイベントも開催しやすく、小規模な津和野駅周辺などでのまち歩きにも活用することで周辺エリアの活性化にも繋がる。また津和野の歴史的な風景の再現と様々な広場が設けられて、駅前から駅まで、そして中心部へと訪れる人の流れを自然と導く。

駅前広場から駅通りや坂道へへの一体感のイメージ、縮尺1:1000

印象的で様々な行事に使える「大広場」、駅通りと一体で新たな人の流れを作り出す。

新しい瓦葺屋根と駅通りの風景が空間に一体感を生み、さらに駅寄り部分に大広場が生まれることで、駅通りから駅前広場まで一つのイベント空間としても活用することが可能になります。津和野や津和野駅などの津和野が誇る伝統的な祭りも、この駅前広場を会場の一部として活用することで、新たな人の流れや賑わいをつくり出します。ゲートの代わりに、人々をまちへと導く広場を設けることで、既存の駅通りに好循環をもたらし、少しずつ歩きたくなる町歩きが形成されていくと考えています。



〈現在の駅前〉

駅前がバスやタクシーのローケターとなっているため周辺と分離された一体感のない印象をみえる

〈改修後の駅前〉

駅前広場によって周辺と連続した賑わいが形成されると共に、駅通りと一体的な利用も可能になる

津和野の原風景や歴史・文化を求めて、「偉人像」から津和野まち歩きが始まる。

津和野を訪れる多くの観光客は、豊かな自然・歴史・文化が生まれ出した美しい風景、道徳・文脈を求めます。そこで新しい駅前広場の一角でもあり、駅通りの始点でもある小広場には、津和野が生んだ偉人たちの銅像を設けます。その銅像を見た後に観光をすることで、「偉人に会いに行く」「偉人が見ていた風景を見つめる」という感覚で、まち歩きを楽しむことができると考えています。また地元の方々にとっても、旅情に一層の潤いと愛着を持つきっかけになればと考えています。

津和野を代表する偉人のイメージ

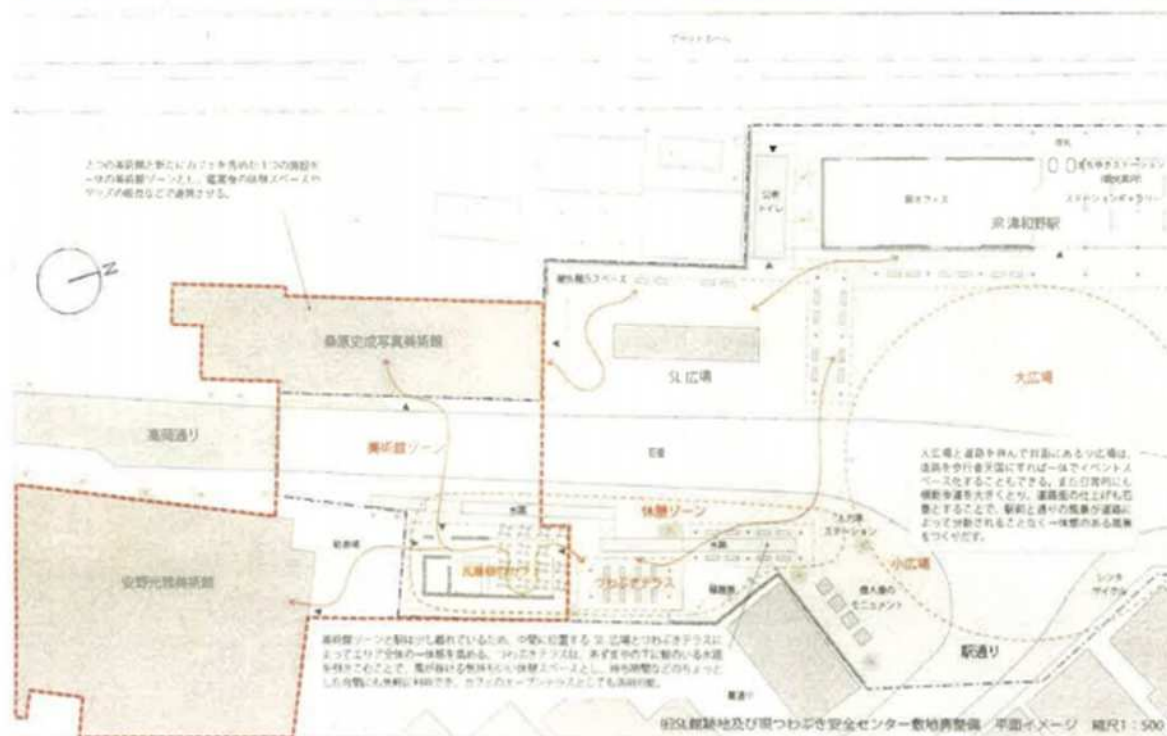


最終的に誰を、何人選定するかは地域の方や関係者との協議で決定すること、早く地元へ愛され、誰もが納得できるモニュメントにし、まち歩きに誘いたいと考えています。

駅前広場モニュメント、駅通りへのゲートについて

【2-6】旧 SL 館跡地周辺及び現つわぶき安全センター敷地の再整備、魅力化について

04



2つの美術館と駅前広場の機能と風景の連続をつくる。
みんなが集まる交流場所としての「瓦屋根のカフェ」。

駅南側に位置する2つの美術館と、新しい駅前広場の風景の連続と一体的な空間体験を作るために、現つわぶき安全センターの隣に瓦葺きを用いた「瓦屋根のカフェ」を設けます。このカフェは2つの美術館の共有の空間として展示と活動したメニューなどを楽しむメニューやジェムのような役割を果たします。また観光客だけでなく地産の方々も気軽に楽しめるようオープンな設えとすることで、切り離されている駅前広場と美術館との間に暖かいの連続をつくりだします。



あずまやの下に水路と植栽とナラスを設け、誰でも気軽に立ち寄り休憩できる「つわぶきテラス」。

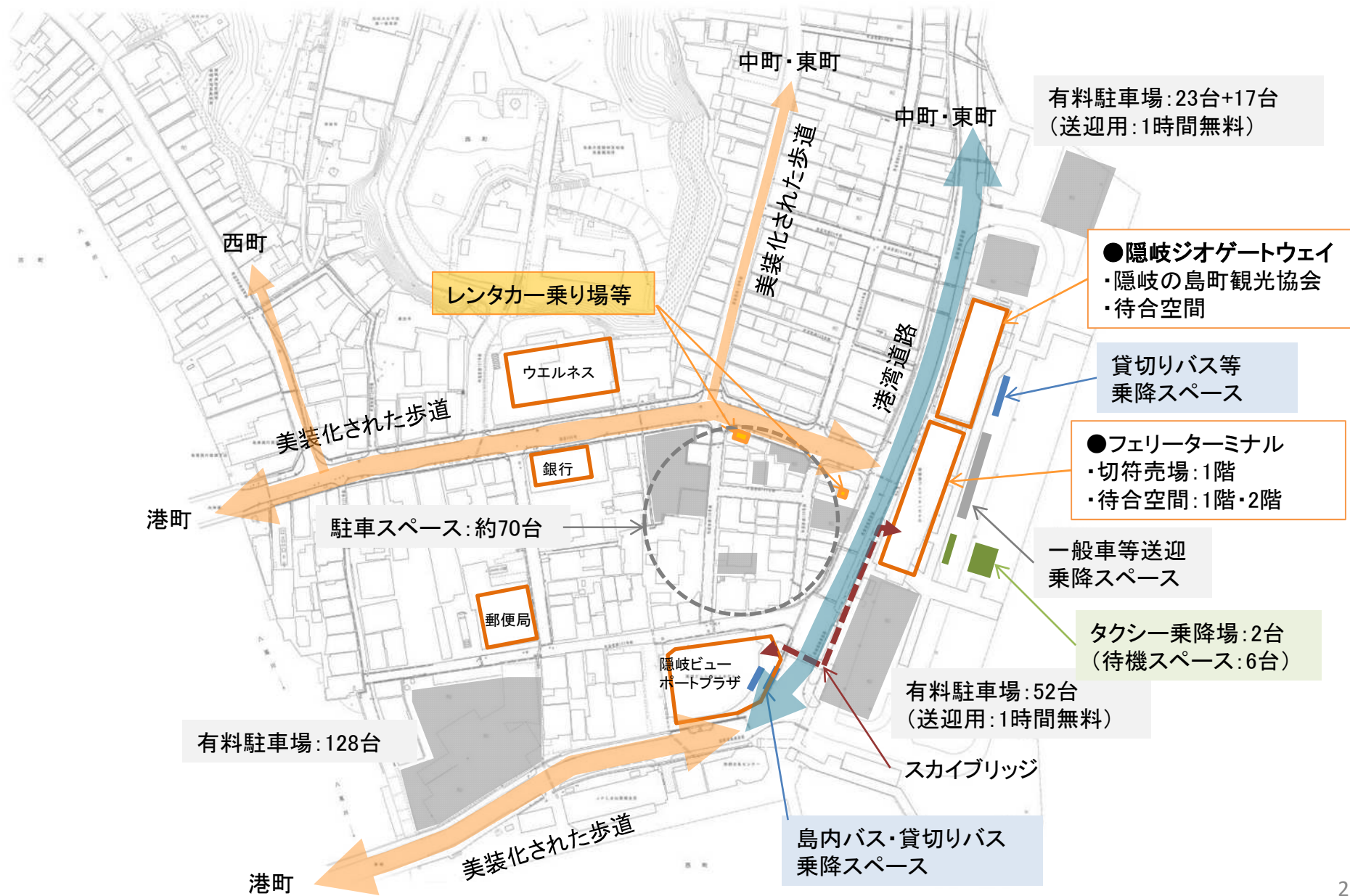
「瓦屋根のカフェ」に隣接する旧 SL 館跡地には瓦葺きのあずまやを設け、その下に緑豊かな水路や植栽を設えた「つわぶきテラス」をつくりだします。涼やかな風と緑と水と土と瓦葺きの空間は、風が抜ける気持ちの良い休憩スペースとなり訪れる人々を癒やします。カフェのテラス席やイベント時の観覧席として、また散歩で歩き疲れた観光客の休憩場所として、誰と誰の大切な時間の流れを体験できる貴重な場所の一つにしたいと考えています。



西郷港ターミナルエリア

利用しやすい交通拠点の整備

ターミナルエリア周辺の交通環境の現状



中心部のバスの運行ルート



人と交通の流れの充実に向けて

各種交通の乗降場の望ましい位置は？

●一般車の送迎用乗降場

●飲食店など利用者駐車場

●観光バスの乗降場

●路線バスの乗降場

●タクシーの乗降場

ターミナルエリアの交通環境の検討(ワーク)



- 一般車の送迎用乗降場
- 飲食店など利用者駐車場

- 観光バス
- 路線バスの乗降場
- タクシーの乗降場

意見交換会のスケジュール(予定)

回数	開催時期	内 容
第1回	令和2年 11月	・ターミナルエリアの整備方針の共有 ・整備にあたっての心配ごとや留意事項について
第2回	令和2年 12月	・計画づくりの進め方や成果目標のイメージについて ・交通機能の配置について
第3回	令和3年 3月	・ターミナルエリアの配置動線計画について ・ひとが歩いて楽しめる流れづくりについて
第4回	令和3年 4月	・交流機能の充実や商業機能の強化について ・景観づくり方針について
第5回	令和3年 6月	・空間機能のデザインの仕様(案)について プロポの条件(仕様)の決定 (盛り込むべき空間機能の配置・規模や留意事項)

西郷港玄関口地域 都市再生整備計画の進め方

